



たこまち水族館ワークショップ

とタコ足メンバーに相談したのがきっかけで、多古新町ハウスの地域交流スペース寺子屋を使って不定期に始まったのが、駄菓子屋たこのつば。現在コロナ禍のため活動休止中ですが、多古新町ハウスの利用者さんや近所の方がふらっと立ち寄って自由気ままなひとときを過ごす駄菓子屋さんです。コーヒープレイクやランチ、時には小さな手芸教室になったり、勉強したり、おしゃべりしたりと様々な人がつながる駄菓子屋さんになりました。地域のみなが再開を心待ちにしています。



おっちゃん和街を歩きながら福祉を考えるツアー



歩け歩け大会

が、タコ足のつながりで知り合った住民から「そんな山道歩いてないで、街中を歩けよ」と声がかかりました。思ってもみなかったこの声をきっかけに、町内の神社やお寺、商店の協力で商店街をフィールドとした歩け歩け大会となりました。商店街の各店舗へのあいさつ回りには、施設の職員とともに声をかけてくれた住民が一緒に回ってくれました。総勢300名の利用者さんとスタッフが町内の商店で食事をしたり、買い物をしたり。普段は閑散としている商店街がとても賑やかになりました。回を重ねるごとに一般参加者も増え、地域住民や町外の人も関わる行事になっています。

エピソード2

バナナジュースプロジェクト（平成29年）

「最近おばあちゃんの元気がなくて心配」と相談を受け、タコ足メンバーが思いついたのは、「バナナジュースプロジェクト」。ご本人が長年商店街で営んでいた喫茶店のジュースをみんなに振る舞ってもらう会を地域の拠点で開きました。

「ご本人は最初、「楽しみ」よりも「不安」が強かったようですが、ご家族のサポートもあり、当日に臨みました。タコ足のつながりで集まった参加者は約10人。参加者のみんなな

エピソード4

タコ足災害ボラセン（令和元年）

令和元年9月、多古町に台風15号が直撃し、町内全域が停電、断水しました。暑さの中、高齢者や子どもへの影響が大きく、深刻な状況でした。復旧の目途も立たないなか、タコ足メンバーはSNSで被害状況を発信。それを見た町外のつながりから、飲料水や経口補水液、非常食などが多く集まりました。寺子屋を「タコ足災害ボラセン」と名付け、困っている介護事業所や福祉施設、地域の方々へ物品搬送などを行いました。学童保育にはあたたかいおにぎりの差し入れもあり、子どもたちは大喜びでした。社協の災害ボラセンが立ち上がるまで、行政が動けない部分をサポートしてくれました。

紹介した活動のほかにも、商店街のパン屋さんや靴屋さんが、障がいのある方の活動場所を提供したり、商店街の飲食店や商店に施設利用者の絵を飾ったりとヒト・モノ・コトをつないだ地域のネットワーク活動を行ってきました。障がいがある人もない人も、高齢者も若者も、大人も子どもも、できる人ができる時にできることをしながら、ゆるく楽しくまちを盛り上げています。

（多古町保健福祉課 平野香）



バナナジュースプロジェクト

ら「おいしいね」、「ありがとう」と言われ、ご本人はとても嬉しくなったそうです。回を重ねるごとにご本人が元気になり、ご本人の活動範囲も少しずつ広がりました。5年たった今でも元気に近所の友だちと地域の拠点に通い、おしゃべりに花を咲かせています。ご本人の得意なことを活かした活躍の場をタコ足のつながりでつくったことで、ご本人が元気を取り戻したプロジェクトです。

エピソード3

駄菓子屋たこのつば（令和元年）

地域の二人の女性が「地域で何かやりたい



多古ではたらこ



タコ足☆kaigoカフェ